



よいことの  
ために  
手を取りあおう

# 会報

## WEEKLY REPORT

2025-26 R.I.会長

フランчесコ・アレツオ  
第2500地区第6分区帯広北ロータリークラブ

会長／荒木 樹

副会長／一宮 綾子

幹事／齊藤 政樹

[四つのテスト]1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

### 第3193回 例会報告

2026.2.12

●例会日／金曜日 〈12：30～13：30〉  
●例会場／ホテル日航ノースランド帯広  
●事務局／帯広市西3条南9丁目23 帯広経済センタービル東館3F  
TEL 0155-25-7347

#### 帯広5RC・芽室RC・音更RC・合同例会

■点 鐘 帯広西ロータリークラブ 森 会長

■開会宣言 帯広西ロータリークラブ 朴 SAA

■ロータリーソング (奉仕の理想)

■ゲスト紹介

写真家 長倉 洋海 様

■会長挨拶 帯広西ロータリークラブ 森 会長

本日は足元の悪い中、7クラブ合同例会に多数のロータリアンの皆さまにご出席いただき、心より御礼申し上げます。本例会は、国際ロータリー2月の月間テーマ「平和と紛争予防・紛争解決」に沿って開催いたしました。

ロータリーは、疾病対策や水と衛生、母子の健康、教育支援、地域経済の発展といった分野での国際奉仕活動をはじめ、ロータリー平和センターを通じた平和フェローの育成、ポリオ撲滅活動、紛争後の復興支援など、多方面から平和構築に取り組んでいます。ポリオ撲滅においては、Bill & Melinda Gates Foundation をはじめとする団体と連携し、世界的な成果を挙げております。

現在、世界各地で紛争や対立が続き、国際情勢は混迷を深めています。このような時代だからこそ、私たちロータリアンが実践する地道で継続的な奉仕活動の意義を、改めて見つめ直す必要があると感じております。

本日の講師には、釧路市在住のフォトジャーナリスト長倉洋海様をお迎えしました。

世界各地の紛争地取材してこられた豊富なご経験を通して、平和とは何かを深く考える貴重な機会をいただきました。

本例会が、平和について自らに問い直し、行動へとつなげる契機となることを願っております。

■会務報告 齋藤 政樹 幹事

帯広北ロータリークラブ

・2月20日 (金) : 創立記念夜間例会

午後6時30分～

ホテル日航ノースランド帯広

■プログラム

帯広西ロータリークラブ

長平 国際奉仕委員長

皆様、こんにちは。

本日はご多忙の中、例会にご出席を賜り誠にありがとうございます。

2月はロータリーの特別月間「平和構築と紛争予防月間」です。ロータリーにおける平和とは、単に戦争がない状態を指すものではありません。安心して暮らすことができ、持続可能な社会が築かれている状態こそが、私たちの目指す平和であります。争いを止めるだけではなく、争いが起こらない社会をいかにつくるか——その視点を改めて考える大切な月であります。

本日は、その趣旨にふさわしい特別講師として、戦場カメラマン・写真家の長倉洋美様をお迎えいたしました。

長倉様はこれまで、アフガニスタン、エルサルバドル、レバノン、カンボジアなど数多くの紛争地取材され、銃弾が飛び交う最前線や、爆撃の爪痕が残る街、家族を失った子どもたちの姿を、命がけで記録し続けてこられました。

1952年生まれ。東北大学法学部をご卒業後、時事通信社を経てフリーランスのフォトジャーナリ



ストとして独立。日本写真協会新人賞、土門拳賞をはじめ数々の賞を受賞され、国際的にも高い評価を受けておられます。現在もなお、世界の現実を伝え続け、次世代のジャーナリストにも大きな影響を与えておられる存在です。

本日のご講演では、「私が見てきた戦争と平和」と題し、実際に撮影された写真を通して、戦地の現実とそこに生きる人々の姿をお話しいたします。

ロータリーが掲げる平和の推進は、まず「知ること」、そして「心を寄せること」から始まります。本日の講演が、私たち一人ひとりの国際奉仕への思いをさらに深める機会となることを願っております。

### 「ぼくが見てきた戦争と平和」

写真家 長倉 洋海 様

みなさん、こんにちは。長倉洋海と申します。

「洋海」という名前は、太平洋の“洋”と同じ、海という字を書きます。世界に出て仕事をしていると、「いいお名前ですね」とよく言われます。これは祖父が付けてくれました。広い海を越えて世界とつながる人間になれ、という願いが込められていたそうです。

私はこれまで、67カ国取材してきました。けれど、国の数よりも大切なのは「無事に帰って来られた」という事実です。戦場は本当に危険です。でも、私はいつも思うのです。生きて帰れたのは、現地の人たちが私を受け入れてくれたからだ。

戦場で出会うのは、銃や爆撃だけではありません。そこには、家族を思う心や、子どもたちの笑顔があります。レバノンの難民キャンプでも、エルサルバドルの内戦の中でも、私は子どもたちに出会いました。

エルサルバドルで出会った少女は、戦争でお父さんを亡くしていました。それでも、いつも笑っているんです。後に彼女に「どうして笑っているの？」と聞いたことがあります。すると彼女

はこう言いました。

「私が笑えば、まわりの人が少し幸せになるから。」

私は、その言葉を忘れることができません。写真は一瞬を切り取りますが、本当に大切なのは、その奥にある心です。

アフガニスタンでは、戦う立場にありながら、詩を愛し、本を読み、子どもたちの教育を大切にしていた指導者に会いました。戦争は悪い。けれど、なぜ人が戦わざるを得ないのか、その背景を理解しなければ、平和は語れないのだと私は感じました。

私は、戦場で多くの死を見てきました。けれど同時に、命の強さも見てきました。焼け跡に咲く花、新しく生まれる赤ん坊、人を思いやる小さな行為。どんな状況でも、人は生きようとします。

最近「天と地と人」ということをよく考えます。自然の中に立つと、人間は決して大きな存在ではないと気づかされます。北米の先住民には「七代先の子どものことを考えて決断する」という教えがあります。今の自分だけではなく、未来の世代のためにどう行動するか。それが、本当の意味での責任ではないでしょうか。

私が生きて帰ることができたのは、世界の人たちが私を受け入れてくれたからです。平和も同じだと思います。まずは相手を受け入れること。理解しようとする。そこからしか始まりません。

戦場で私が学んだのは、命の重さと、人の優しさでした。

今日こうして皆さんとお話しできることに、心から感謝しています。

長倉氏は最後に、「互いに心を開き、受け入れ合うことが平和への第一歩」と結びました。

戦場の現実と、そこに生きる人々の尊厳を通して、平和とは何かを深く問いかける講演となりました。



■謝辞 帯広東ロータリークラブ 加藤 会長  
 本日は大変貴重なご講演を賜り、誠にありがとうございました。  
 67カ国に及ぶ取材活動の中で撮影された数々の写真は、いずれも紛れもない「事実」でありました。そして本日は、その事実の背景にある「真実」についても、深くお話をお聞かせいただいたように感じております。  
 実は私自身も映像制作の仕事に携わっており、テレビニュースのカメラマンを担当することもございます。十勝の出来事を地域の皆様に伝える立場にありますが、本日のご講演を拝聴し、改めて

「伝える」ということの重みと責任を感じました。単に何が起きているかを知らせるだけではなく、その背景や人の思いまで伝えていくことの大切さを強く心に刻みました。  
 普段この地にはなかなか感じる事のできない世界の現実を、写真を通して届けていただきましたことに、心より感謝申し上げます。  
 本日の学びを胸に、ロータリアンとして、少しでも世界の平和や人々の幸せに貢献できる活動を続けてまいりたいと存じます。  
 長倉様、本日は誠にありがとうございました。



■次週のプログラム予定

「休会」

■閉会宣言 帯広西RC 朴 SAA

■点鐘 帯広西RC 森 会長

例会案内

〈月曜日〉 広尾RC:日高信金広尾支店 〈水曜日〉 帯広RC:ホテル日航ノースランド 〈木曜日〉 足寄RC:足寄銀河ホール21  
 帯広南RC:北海道ホテル 上士幌RC:川村福祉会館 清水RC:清水町中央公民館  
 〈火曜日〉 芽室RC:めむろーどセミナー 音更RC:ハビオ木野 帯広西RC:北海道ホテル

■出席報告/渡辺 紘生 出席委員長

会員数	計算に用いる 会 員 数	ホームクラブ 出 席 数	メイクアップ	欠 席	出席率